

組合だより

発行所 中標津農業協同組合・中標津町農業共済組合
発行 昭和54年8月 第59号 印刷・アート印刷株式会社



日大実習生受入式



今年も日大の農獣医学部の学生が酪農実習にやって来ました。

全部で一二六名で実習先は中標津一〇名上春別一三名標津三名となり受入農家数は九一戸となりました。この外に個人的に来た学生関係者のあっせんで来た学生が五十名はいるようです。

日大生が来るようになって四年目二年生が主体ですが酪農経験の殆んどない学生ばかりと言ってもよい位である。来てからもう一カ月全員皆元気で頑張っているのが嬉しい限りである。

大動物、大農機具の中にうずまっの毎日なので全員無事故で三十日間が終るのを願うばかりである無事目的通り実習を終りこれから帰りますと挨拶に見える学生も大分いるが、やり遂げたと言う満足感のようなものがこちらにも伝わって来るような気がする。たった三十日ではあるがたくましくなっ

理事会の経過

第四回理事会

六月二十五日開催

議案

一、生活店舗の増改築工事、並びに倉庫建設と指名業者の決定について。
原案どおり決定。

二、退職給与規程の一部改定について。
原案どおり決定。

三、農漁村動力電気導入事業（三相電気）の実施について。
原案どおり決定。

報告事項
一、固定資産監査の実施について。

二、牛乳消費拡大運動の現況報告について。

三、臨時職員から正職員への採用について。

四、油の状況について。

五、系統家畜市場開催の状況に

ついて。

六、乳質の状況について。

七、公用地活用推進協議会の発足について。

生活店舗の 増改築はじまる

今年度の総会で生活店舗の増改築を承認していただき、その後、門部協議を行ないホクレンに設計を依頼した。

七月九日に各社から見積り書の提示があり、結果は、丸彦渡辺建設株式会社が請負業者と決まった。起工式が八月月上旬に行なわれ、増築工事から始まり、完成は十月中旬となっている。

工事期間中は何かと不便をかけることが予測され、特に駐車場がせまく、職員の近距離通勤者にはマイカーの運転と駐車を自粛して協力をしてもらっています。

また、生活・資材店舗横の道路舗装工事が今月中に施工されるので完成されるまで、かなり不便になりそうです。

生活店舗の営業休止期間については、九月の組合日よりか、無線放送で知らせます。

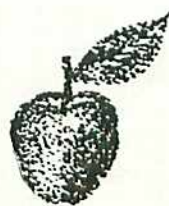


自動車共済請求に係る 交通事故証明書の提出について

四月一日よりの自動車共済の仕組の改訂により車物の事故であっても左記の事項に該当する場合は、事故証明書を提出していただくようになりましたので、充分ご注意願います。

記

- 一、組合員で、新規契約後、一カ月以内の事故
- 二、員外契約の事故については、
全事案
(人身事故については、従来通り全事案)



54年度 事業の 進捗状況

今年度第十四半期（六月末）までの事業の進捗状況を、大ま

かですが別表のとおり報告します。
進捗比率で昨年と差の大きなところでは、組助貸越残が今年度は昨年の繰越額を精算整理をしたので大きく下がった。また販売の取扱高で家畜の取扱が今年は昨年よりだいぶ伸びている。その他については昨年と余り差はない。

昭和54年度事業の進捗状況表

※第一、四半期(6月末日)の進捗状況と前年度同期の比較

(単位 千円)

種別	区分	54年度計画		54年度実績		53年度実績		前年同期との増減(B-C)	計画に対する進捗比較			
		金額(A)	前年比%	54年3月末	54年6月末(B)	増減	53年3月末		53年6月末(C)	増減	54年度	53年度
貯金	金	3,900,000	110.7%	3,521,812	3,573,769	51,957	2,998,719	3,046,874	48,155	526,895	91.6%	88.3%
(内組期預り残)		(150,000)	(91.5)	(163,874)	(68,345)	(Δ95,529)	(138,936)	(47,758)	Δ91,178	(20,587)	45.5	31.8
貸付金	金	3,347,028	105.4	3,173,769	3,501,177	327,408	2,973,732	3,455,121	481,329	46,056	104.6	109.1
(内アロパ一貸付)		(1,296,439)	93.8	(1,381,439)	(1,696,415)	(314,976)	(1,305,942)	(1,750,116)	(444,174)	(Δ53,701)	(130.8)	(141.3)
付託資金	金	(100,000)	101.5	(98,496)	(467,034)	(368,538)	(334,501)	(677,939)	(343,438)	(Δ210,905)	(467.0)	(792.9)
(内組期貸越残)		(100,000)	101.5	(98,496)	(467,034)	(368,538)	(334,501)	(677,939)	(343,438)	(Δ210,905)	(467.0)	(792.9)
入金	金	4,098,195	113.9	3,597,061	3,675,355	78,294	3,047,016	3,079,103	32,087	596,252	89.6	87.0
預入金	金	7,445,223	109.9	6,770,830	7,176,532	405,702	6,020,808	6,534,224	513,416	642,308	96.3	97.4
借入金	金	2,955,500	111.1	2,658,570	2,657,972	Δ598	2,208,925	2,203,266	Δ5,659	454,706	89.9	84.5
(内当座借越)		(950,000)	119.6	(793,660)	(820,531)	(26,871)	(833,436)	(897,134)	(63,698)	(Δ76,603)	(86.3)	(122.2)
入金設備借入金	金	158,788	114.4	138,689	138,349	Δ340	175,553	174,124	Δ1,429	Δ35,775	87.1	125.6
入金計		3,071,426	107.3	2,861,862	2,888,393	26,531	2,870,489	2,921,708	51,219	Δ33,315	94.0	97.9
預金ネット		2,005,500	107.5	1,864,910	1,837,441	Δ27,469	1,375,489	1,306,132	Δ69,357	531,309	91.6	69.8
長期共済保有(満期)		2,622,400	111.8	2,345,050	2,338,050	Δ7,000	2,092,150	2,344,150	252,000	Δ6,100	89.1	100.2
”(保障)		9,711,300	116.4	8,339,050	8,304,050	Δ35,000	6,993,950	8,214,350	1,220,400	89,700	85.5	98.5
販売取高	牛乳	3,439,008	104.2	3,439,008	759,890	759,890	687,396	687,396	687,396	72,494	22.0	21.1
取高	畜産	507,000	79.8	507,000	201,159	201,159	116,050	116,050	116,050	85,109	39.6	23.8
取高	農産物	644,268	105.8	644,268	46,008	46,008	26,354	26,354	26,354	19,654	7.1	5.0
取高	計	4,950,276	101.0	4,950,276	1,007,057	1,007,057	829,800	829,800	829,800	117,257	21.9	19.5
購入	買取高	3,897,550	100.1	3,897,550	946,223	946,223	1,008,483	1,008,483	1,008,483	Δ62,260	24.2	28.6
購入	取高	475,000	113.4	475,000	400,770	Δ74,230	391,490	384,005	Δ7,485	16,765	84.3	96.7
購入	立金	114,398	130.8	87,407	114,398	26,991	63,388	87,407	24,019	26,991	100.0	100.0
購入	計	589,398	116.4	506,267	515,168	8,901	454,878	471,412	16,534	43,756	87.4	97.3
固定資産	有形固定資産	542,101	141.7	382,370	402,343	19,973	414,947	414,745	Δ202	Δ12,402	74.2	105.6
固定資産	外部出資	124,695	107.1	116,425	130,235	13,810	97,194	119,515	22,321	10,720	93.3	110.8
固定資産	計	666,796	133.6	498,795	532,578	33,783	512,141	534,260	22,119	Δ1,682	79.8	106.7

昭和53年度

合乳細菌数検査成績

根室地方乳質改善協議会で酪農検査所中標津支所の協力を得て昭和五十三年度「乳固型分及び細菌数検査報告」を発刊しましたので今回は合乳細菌数検査についてのみ抜粋、掲載し次回には乳固型分についてを予定しております。

本年度の合乳細菌検査成績は四〇〇万以下九八・七％であり、全道成績が九九・一％であるから、全道的にみると釧路(九九・八)八雲(九九・六)苫小牧(九九・五)で上位であり、旭川(九八・〇)北見、中標津(九八・七)と下位に位置しています。地区的に四〇〇万以上の発生率を農協別にみると根室(三・九)最も高く次に上春別(二・一)で、率の低いのは羅臼(〇)中標津(〇・六)、計根別(〇・七)ですが細菌数一〇〇万以下では管内九農協のうち六位の成績です。細菌の乳質改善から成分的乳質、乳成分格差(無脂固型分基準)による乳代支払が二、三年前より論議されており、今一度細菌の乳質の改善に努力を傾注しましょう。

2. 管内農協別

(単位 %)

農協	細菌数区分					
	0~50万	51~100万	110~200万	210~400万	410万以上	
標津町	73.9	(90.9) 17.0	5.5	2.2	98.6	1.4
中標津	64.7	(87.4) 22.7	8.3	3.7	99.4	0.6
計根別	66.5	(88) 21.5	8.9	2.4	99.3	0.7
西春別	62.5	(87.5) 25.0	9.1	2.5	99.1	0.9
上春別	62.6	(85.7) 23.1	9.0	3.2	97.9	2.1
別海	73.5	(91.9) 18.4	5.5	1.3	98.7	1.3
根釧PF中春別	47.5	(81.6) 34.1	14.5	2.7	98.8	1.2
根室	50.4	(73.3) 22.9	13.3	9.5	96.1	3.9
羅臼町	77.1	(98.7) 21.6	-	1.3	100	-
管内計	63.8	(86.6) 22.8	9.1	3.0	98.7	1.3

()内数字は細菌数0~50万51~100万合計%です。

バルククーラーのスイッチの入れ忘れに注意を

七月一日に別海町営野球場で開かれた大会で、昭和三十五年度以来久しぶりに優勝をした。

この大会では、別海農協が常勝していたが、準決勝で一対〇と破り、決勝戦では、中春別PF農協に三対一で勝った。

当日は応援に、児玉組合長をはじめ多勢の職員もかけつけた。

昭和53年度全道合乳細菌数検査成績

1. 酪農支所別

(単位 %)

農協	細菌数区分				
	100万以下	110~200万	210~400万	410万以上	
八雲	84.9	12.0	2.7	99.6	0.4
苫小牧	90.3	7.7	1.5	99.5	0.5
帯広	79.3	13.3	5.8	98.8	1.2
釧路	88.5	9.4	1.9	99.8	0.2
中標津	86.6	9.1	3.0	98.7	1.3
北見	80.2	14.7	3.8	98.7	1.3
紋別	76.3	18.5	4.5	99.3	0.7
旭川	76.2	14.3	7.7	98.2	1.8
稚内	81.9	12.9	4.2	99.0	1.0
札幌	84.0	11.5	3.8	99.3	0.7
平均	83.0	12.2	3.9	99.1	0.9
52年度平均	76.4	17.0	5.5	98.9	1.1

優勝する、

根室管内農協
職員野球
大会で

(5) 組合だより

3. 生乳生産計画実績表 (4月分~6月分累計)

	54年度計画対比			53年度実績対比		
	計画	実績	計画比	前年実績	実績比	
支所名 (ホクレン)	函館	19,042 トン	19,360 トン	1.7%	18,261 トン	6.0%
	倶知安	7,476	7,254	Δ 3.0	6,759	7.3
	苫小牧	18,976	19,189	1.1	17,799	7.8
	札幌	5,117	5,038	Δ 1.5	4,863	3.6
	岩見沢	5,878	6,098	3.7	5,464	11.6
	留萌	21,683	21,351	Δ 1.5	20,846	2.4
	旭川	26,171	25,929	Δ 0.9	24,496	5.8
	稚内	44,615	43,487	Δ 2.5	42,130	3.2
	帯広	117,677	120,839	2.7	108,736	11.1
	北見	82,926	83,422	0.6	79,737	4.6
農協名	釧路	68,507	66,958	Δ 2.3	62,139	7.8
	中標津	96,001	97,103	1.1	90,551	7.2
	合計	514,069	516,028	0.4	481,784	7.1
	標津	10,065 トン	9,904 トン	Δ 1.6%	9,437 トン	4.9%
	中標津	11,842	11,957	1.0	11,277	6.0
	計根別	12,130	12,219	0.7	11,419	7.0
	西春別	12,076	12,407	2.7	11,393	8.9
	上春別	7,920	8,016	1.2	7,768	3.2
	別海	21,000	20,700	Δ 1.4	19,462	6.4
	PF中春別	14,046	14,449	2.9	13,388	7.9
根室	6,557	7,053	7.6	6,069	16.2	
羅臼	365	398	9.0	339	17.4	
計	96,001	97,103	1.1	90,551	7.2	

1. 生乳生産動向

前年比% (北海道・ホクレン)

月	前年比%	前年比%	
		上旬	下旬
4月	11.34	14.60	10.18
		9.45	8.42
		6.75	5.00
5月	6.62	4.06	3.38
		5.22	
6月	4.21		

《最近の酪農動向》

2. 飲用牛乳消費動向 (純清)

月	府県前年比%	北海道前年比%
1月	4.0	10.4
2月	3.9	12.8
3月	3.8	14.7
4月	4.5	13.2
累計	4.0	12.9
5月	3.5	14.8

第2次海外研修

アメリカ・カナダ酪農視察参加者募集!!

ローヤルウインターフェア参観

農業先進国アメリカ、カナダ及びヨーロッパの技術等を研鑽し地域農業の恒久的安定を図る事を目的とした海外研修は今年度第二次の研修、視察をアメリカ、カナダと海外研修推進委員会で決定いたしました。近年管内においてアメリカ、カナダより優秀な基礎牝牛の導入に鑑み、アメリカ、カナダの乳牛改良の現状と今後の方向を深るため有名牝牛並びに種牝牛を中心とした牧場、フリーデングを主体としない生産牧場、世界最大の規模といわれるローヤル、ウインターフェア、参観等の研修企画は必ずや皆様の経営に直ちに役立つ視察であることと確信致しております。海外研修会員の皆様第二次海外研修にご参加下さる様お待ち申し上げます。

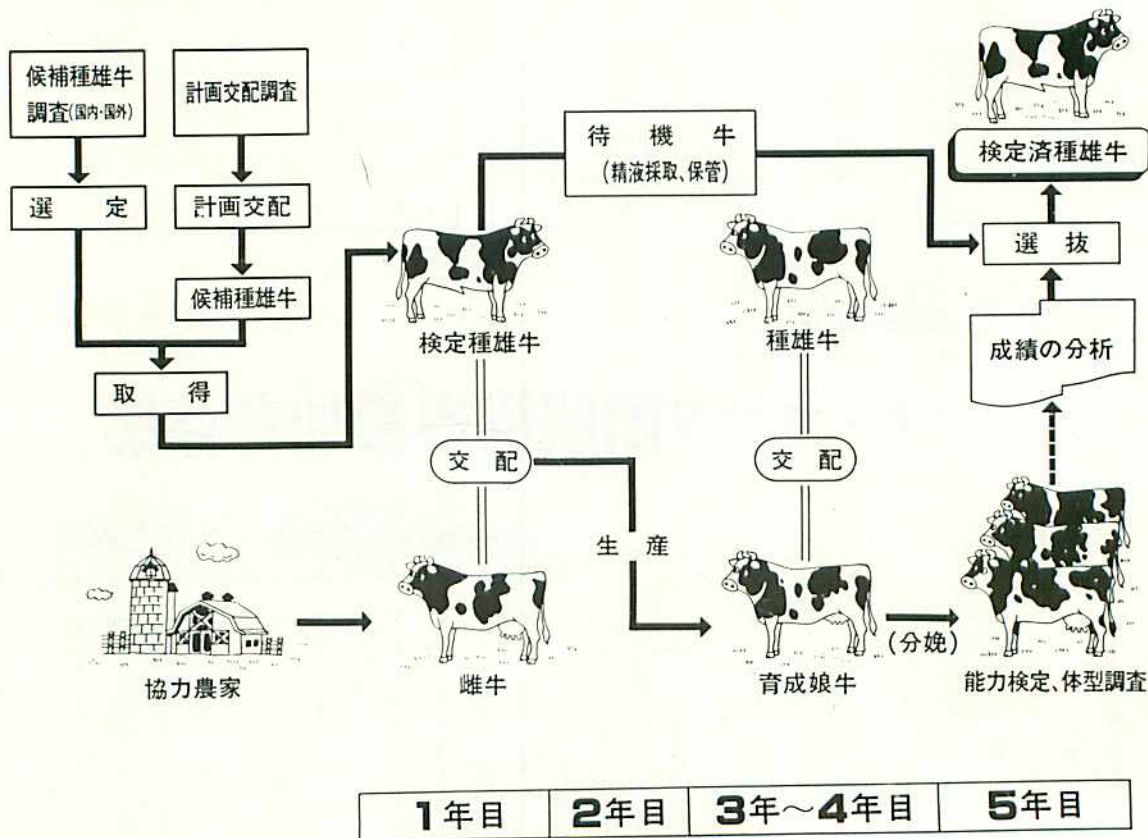
一、旅行先 アメリカ、カナダ
 二、旅行期間 昭和五十四年十一月五日~昭和五十四年十一月二十一日(十七日間) 予定
 三、参加費用 毎月積立、一万円五カ年、六〇万円の予定
 四、募集人員 三〇名 五、締切日、昭和五十四年八月三十日
 中標津農協海外研修事務局、農協畜産課

種雄牛後代検定の仕組み

我が国の乳牛は輸入されてから百年余り経ち、その間、技術の進歩は勿論のこと、凍結精液の普及と共に優秀種雄牛の有効利用がはかられ、乳牛改良の地域差は近年著しく解消されてきたが、その進歩は遅く、アメリカ、カナダ等先進酪農国と比較しても著しい進歩はみられない。それは科学的、能率的改良によるものでなく、目で頼るものが大半をしめているせいではないかと思えます。北海道の基幹産業の一つである酪農をより安定的に、且つ飛躍的に発展させるために、昭和51年度より、北海道畜改良事業団において後代検定が実施されております。この仕事は種雄牛のもっている潜在遺伝能力資算、及び特性を把握し、種雄牛の選抜淘汰を行うと共に、種雄牛の選定、配合の資料として、乳牛改良の促進を図ろうという事です。そこで私達は、本事業については組合員の皆さんの協力を得ながら能力、体型共に、この地域に密着した経済性のある種雄牛を選定すべく積極的に進めていきたいと思えます。この後代検定も今年で4年目を迎え、第1回目の検定種雄牛によって生れた娘牛も、すでに12頭受胎しており、来年の体型、能力調査の結果が期待されます。

〈種雄牛の確保〉

〈後代検定の仕組〉



(7) 組合 だ よ り

H-245 ブラウンデール サークリストファー EX
 父 アイデアル ヒュリー リフレクター EXGM
 母 グリン エルムス エコークリスチナー EX
 1972. 1973 オールカナダン

H-257 エルジンビュー アストロス イメージ
 父 バクラマー アストロナット EXGM
 母 ジャーゲンス リトル ガーレイ EX
 9.1才 2回 14.305 577.40

H-197 スミツクランド オスマン
 父 バクラマー ブーツメーカー (EX)
 母 パウロ ブラザー アール オー マイダ (82.0)
 3.5才 305日 7,192kg 336kg 4.7%

H-249 ビツク ブーツメーカー テルスター
 父 ロイブルツク テルスター (93.0)
 母 オーク リツジス ベギー ビー (86.0)
 3.8才 365日 12,731kg 485kg 3.8%

H-255 ハツピー リバー キヤピテン オレー
 父 バクラマー キヤピテン (91.5)
 母 ヘイグマン ハーゲン オーリンダ (90.0)
 3.6才 365日 11,040kg 419kg 3.8%

次に後代検定の仕組み及び54年度の対象種雄牛についてしめしてました。
 ①対象種雄牛、(昭和五十四年度)

②対象農家
 種雄牛の後代検定実施のため、北海道乳牛検定協会の立会検定に加入し乳牛改良に熱意があり、協力してくれる農家。
 ③対象頭数
 H 197 20頭、H 249 20頭、H 250 20頭、H 257 7頭、H 256 6頭、の合計73頭
 ④雌牛の選定、及び交配期間
 種雄牛の交配と雌牛の選定については、その都度、生産者と協議の上決定し、原則として当該年度2頭以上の検定種雄牛を雌牛に交配する。但し同一種雄牛の交配は3頭以内を原則とする。交配期間は、5月19日、の5カ月間
 検定要領
 検定種雄牛の交配によって生産された娘牛は、その農家で育成の上授精、分娩せしめ、2才初産で、全頭数検定を行う。
 ①能力調査
 娘の能力成績は、2才級、36日2回の乳量、乳脂量、乳脂率を地域、分娩季節、年令等の補正を行い同期比較法により種雄牛能力格付を行う。尚算出する業務は、北海道乳牛検定協会で行う。
 ②体型調査
 初産泌乳期間中(分娩後90~150日)に事業団が実施する。
 尚協力農家にはそれぞれの段階で北海道家畜改良事業団より奨励金が交付されます。

春期高等登録・2代本登録審査終わる

最高得点83点 6頭

54年春期高等登録2代本登録体格審査得点表

得点	76.0	76.5	77.0	77.5	78.0	78.5	79.0
頭数	1頭	1頭	4頭	10頭	18頭	26頭	52頭
	79.5	80.0	80.5	81.0	81.5	82.0	82.5
	6頭	37頭	7頭	17頭	0	12頭	3頭
						82.5	83.0
						3頭	6頭

合計 200頭 平均得点 79.5点

1頭平均測尺(1/200頭)

体高 141.3cm 尻長 55.5cm 腰角巾 56.6cm

胸囲 198.5cm

所有者氏名	名	号	生年月日	得点
中本 栄二	セジスランド	ウオーカー レディ	49. 11. 25	83
鈴木 修	ウオーカー	リバー プレミア パーク	48. 9. 25	83
佐伯 雅視	グラハム	ファーム セナタケート	50. 4. 20	83
横田 国雄	アグロ	エーカス ハイマーク ロイス	50. 7. 1	83
佐藤 信義	サウンド	マウンド イーグル	48. 6. 30	83
花川 秀一	ウオーカー	パット エース	48. 3. 20	83

昭和五十四年春期高等、二代本登録審査を七月二、三日、日本ホルスタイン協会北海道支局、斉藤審査員、根室生産連、池永次長により実施され、審査受検頭数、二〇〇頭(七一戸)で平均得点は七九・五点となっております。受検される組合員は結婚祝賀会又は旅行に出る時、頭髪、髭、衣類を整理するよう愛牛にも洗濯、毛刈、削蹄などの飼養管理が必要です。今回の秋期高等登録、二代本登録審査に平均得点八〇点以上の成績をあげられるよう乳牛に対する愛情と意欲の成果を期待します。得点別頭数と八三以上の牛は次の通りです。

獣医師から一言

乳質改善は終わったか？

雪印中標津工場 芳野 誠

最近、マスコミでも、よく牛乳についてのことがとり上げられ、消費者の牛乳、乳製品への関心も高くなってきています。私達は、酪農の発展のために最大限の努力を払って牛乳、乳製品の消費拡大をはかっていかなければいけません。

これらの総合的な改善をしていかなければなりません。今月から乳質について気をつけたいことについて書いてみましょう。

今、消費者の皆さんは食品の安全性について大きな関心をもって、そして、かなりの人々が「安全性」に不安をもっているとの調査結果もあります。やはり安心して飲んでもらえる牛乳であるためには製品の品質改善は当然のことですが、そのための最初の段階である「生乳の品質改善」を進めていくことが大事になってくるわけです。さて、乳質は、おいしい牛乳をつくる上での大きな要素ですが、御承知の様に、乳質は次の二つに分けることができます。

確かに皆さん方の御努力のおかげで乳質は、ここ数年、飛躍的に良くなってきました。

◎細菌数の状態は

皆様方の御努力に敬意を表します。でも、ちょっと表1を見て下さい。表1は酪農検査所の乳質成績です。最近三カ月間の成績ですが、完全に安心できる状態ではないことがわかります。

確かに、ブツも出ないし、乳汁も見た目では全く変りないのに乳房炎と言っていることがあります。PLテストなどで反応の出る潜在性乳房炎に罹っていることがあります。搾乳器具はきれいなのに乳質はサッパリ良くならないという方は、是非PLテストで牛の検査をして見て下さい。乳房炎に罹っている牛が意外に多くいてびっくりすることが多いものです。そんな牛が発見されたら獣医さんに御相談してみして下さい。

◎乳質改善は総合的に
①衛生的乳質(細菌数)
②成分的乳質(牛乳の成分組成)

又、毎月の農協だよりで御覧の通り、個乳の成績も、まだ完全に安心と言っわけにはいきません。そこで、もう一度、皆さん方の牛舎の環境、搾乳器具、牛の状態などのチェックをしてみたいかごめしうか。

御家族の皆さん御一諸に、表2

によって点検してみたいかがですか。

ところで、やはり、乳房炎は乳質に大きな影響を与えます。

表3を御覧下さい。これは、皆さん方の、ある日の合乳の細胞数をタンク車ごとに調べた成績です。

生乳1cc中の細胞数が50万個以上ですと、それは乳房炎の疑いがあるとされます。すると実態はびっくりする成績だと言うことになります。「冗談じゃない。おれの所には絶対に乳房炎の牛なんかいないぞ。」と言って恐らないで下さい。

◎PLテストで検査して見て下さい。

来月も乳質の問題について書いてみます。

表1 中標津農協バルク細菌検査成績表 (54年4月～6月)

月	細菌数	
	検査数	合格数
四月	0～200万	96.3
	210～400万	3.8
	400万以上	—
五月	0～200万	86.2
	210～400万	12.0
	400万以上	1.8
六月	0～200万	98.7
	210～400万	1.3
	400万以上	—

表2 もう一度チェックをしてみましょう。
◎牛舎の環境はいかがですか。
牛床はきれいですか。通路、尿溝は。
◎洗剤、殺菌剤は用意されていますか。
◎搾乳器具の清潔はどうですか。

ライナーは汚れていませんか。
ミルクローに乳石はついていませんか。
ミルクチューブは清潔ですか。
◎処理室は清潔ですか。
バルククーラーはきれいですか。
バルクの上のホコリは。
コックやアジテーターに乳石は。

表Ⅱ 合乳の細胞数の成績

4 月				6 月			
タンク車番号	細胞数	タンク車番号	細胞数	タンク車番号	細胞数	タンク車番号	細胞数
1	96万	12	50万以下	1	54万	12	73
2	100万以上	13	51	2	58	13	50万以下
3	66	14	73	3	54	14	86
4	100万以上	15	50万以下	4	51	15	86
5	98	16	64	5	73	16	58
6	56			6	73	17	50万以下
7	50万以下			7	53	18	53
8	77			8	64	19	75
9	69			9	79	20	100万以上
10	60			10	66	21	86
11	50万以下			11	71	22	77

てん菜褐斑病防除の徹底を図りましょう

農家のみなさん、毎日御苦労さまです。七月は比較的日照時間も少なく、低温気味の気象経過となりましたが、てん菜の生育は皆様方の適切な管理作業の徹底により平年並の生育を示しております。昨年度は、夏期における異常高温により、褐斑病の大発生をきたし、収量にも悪影響を及ぼした訳ですが、本年度は、皆様方の御協力により、七月上旬より事前防除の徹底を願っておりますが、今後は更に気をゆるめず、完全防除の徹底を願ひ、昨年度に劣らぬ高収量を確保されるよう、最善の努力を御願ひ致します。高具体的には次の方法で取進め願ひます。

一、今後の防除は、褐斑病と夜盗虫の同時防除の徹底が必要です。

二、褐斑病防除方法

(1)防除時期／第一回目 七月中旬、第二回目、八月上旬、第三回目、八月中旬、第四回目 八月下旬、第五回目、九月中旬、尚最低でも三回の防除は必要です。(三回の場合と第一回、七月中旬、第二回八月中旬、第三回九月上旬)

(2)使用薬剤量／スズ水相剤、十アール当一〇〇g、水一〇〇リッター、展着剤二十cc(葉腐病多発時は別途連絡)

三、夜盗虫防除方法

(1)防除時期／第一回目、八月上旬、第二回目、九月上旬

(2)使用薬剤量／発生初期はデブテックス乳剤十アール当二〇〇cc、水一〇〇リッター。発生後期はオルトラン水相剤十アール当一〇〇g、水一〇〇リッター。

(3)留意点／褐斑病との同時防除とする。

四 本年度は、褐斑病防除の徹底策として、てん菜振興会より三分の二スズH薬剤助成措置がありますので、積極的に実施願ひます。

五、防除の合間を見て、圃場の除草(拔草)を早期に実施し、収穫作業の効率化を図りましょう。

(ホクレン原料所)

馬鈴しよ

病株判定 共励会終わる!!



共 励 会 風 景

馬鈴薯振興会の54年度の事業計画の病株判定共励会が、7月16日

畑作部会共同ほ場に於いて、参加者60名を越える人達によって盛大に行なわれました。

当日は、普及所、農試、原種農場長の審査員によって病株を判定しましたが、ハマキ、レンヨウ等ウィルス病株が少なく黒アザ系統が多く参加者は、苦勞した事と思ひますが、良り良い馬鈴薯を作ろうと熱心に判定していました。

成績は次の通りです。

- | | |
|-----|----------|
| 団体戦 | 十二チーム参加 |
| 一位 | 第一集団 95点 |
| 二位 | 第三集団 90点 |
| 三位 | 第五集団 84点 |
| 四位 | 第五集団 82点 |
| 五位 | 青年部B 82点 |
| 個人戦 | 四十名参加 |
| 一位 | 松田征二 94点 |
| 二位 | 安達 武 88点 |
| 三位 | 荒 昭一 88点 |
| 四位 | 安達則子 87点 |
| 五位 | 吉川晴久 87点 |
| 六位 | 亀代 務 85点 |
| 七位 | 亀代富江 85点 |
| 八位 | 三宅幸雄 85点 |
| 九位 | 乾美佐子 85点 |
| 十位 | 坂口 弘 84点 |
- 以上の様に皆さん高得点を上げ病株に対して感心を持っている様なので、中標津の馬鈴薯も更に施管理等の向上によって平均反収も伸びる事と思ひます。

農 術
営 技

北根室地区
農業改良普及所

これからの草地の管理

一、晩秋放牧草地の準備
省エネルギー時代の到来と、効率的な牛乳生産が望まれる中で、最も経済的な飼養管理の方法として放牧が一層重要な位置を占めるものと思われませんが、盛夏期から秋にかけて上手な放牧によって牛乳生産の落ち込みを防ぐことが大切です。

五、六、七、五七など）を施肥することもあるが、
二、兼用草地の上手な利用
草の生産量の大半が六月～八月に集中しますから、当初からの放牧地では、草が過剰で、不食草の枯立ちが目立ちます。このような放牧地は、六月、七月に掃除刈りを行うことが効果的ですが、草の生産量が減少に向うことから、一番草を採草した跡地に放牧するいわゆる兼用草地を利用することになります。

草の月別生産量は、年により、草種により又は施肥管理によって異なりますが、昨年の普及所の調査では次のようになっています。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
生産量	675kg	1,665	1,770	1,290	420	150	5,790
比率	11.3%	27.9	29.6	21.6	7.0	2.6	100%

九月以降の牧草の生長量は極端に少なくなっていますので、秋晩くまで放牧を続けたい場合には、どうしてもそのための草地を八月から準備しなければなりません。

九月以降の牧草の生長量は極端に少なくなっていますので、秋晩くまで放牧を続けたい場合には、どうしてもそのための草地を八月から準備しなければなりません。

乾草・サイレージ・青刈りなどどくらべて草の利用率が悪いのが放牧の最大の欠陥です。又若くてやわらかい草程栄養価が高く、嗜好性が高いことから考えて、一番草に比較して二番草は老化が早い傾向にありますから早く採草を行った所から集中的に放牧する。いわゆる輪換放牧が有効で、乳牛の採食量を落さない方法になります。一般に乳牛は一日当り生草で体重の十二～十五%採食すると言われ

れますが、好性の悪い草の状態ではかなり少くなり、このことが秋の牛乳生産の低下の原因ともなります。

三、乾物・エネルギーを充分に秋になると草種がラデノーや白クローバばかりになり、チモシー、オーチャードなどが見られない放牧地がありますが、何回も放牧を繰返し、施肥も燐酸が多く窒素が不足気味の所でこの傾向が見られます。乳牛が必要とする燐、カルシウム、などのミネラルのバランスは豆科が多いことにより改善され、乳牛の健康や良質なたん白質の多いことから牛乳生産にも有効ですが、乾物、エネルギーが不足しないよう、場合によっては乾草を給与する必要があります。放牧地の状態によって判断しましょう。しかし、充分に計画し、配慮しても放牧のみでは秋に向って乳牛の採食量が落ちて来るのは止むを得ないことも言えますので、この為、乾草を給与したり、一時的に青刈り給与を行うなど乾物、エネルギーが不足することのないよう準備をすすめましょう。又、乳牛は放牧期間程、塩の要求量が多いのですが、晝夜放牧の期間は搾乳時を除いて、取る機会が少くなりますので、これを補う工夫も必要です。

四、新播草地の掃除刈り
新しく播種した草地に見られる一般的な雑草は、アカザ、タデハコベ、などですが、これから急

に繁茂して来ます。掃除刈りが遅れると刈取った雑草を搬出しなければならなかったり、牧草の株立ちが薄くなったたり、充分一回利用可能であっても、そのために不可能になったり思わしくない結果を招き勝ちです。雑草の伸び具合で判断すべきですが、大よその目安は播種後四十～四十五日位に見当をつけるの良いでしょう。

五、コーン作付は予定地の準備
コーンの作付面積が増加し、象的なハンディキャップの中でも継続して栽培を計画される方が多いと思います。一般にコーンは養分の収奪が甚だしく、地力の消耗が著しい作物ですから、草地の更新と併せて連作を避けるよう注意しましょう。地力の維持には堆肥が最も有効ですから来年度作付予定地など今から心掛けておきましょう。

ジャガイモシスト線虫
の土壤検診をしよう

すでに皆様良くご存じのジャガイモの大敵、ジャガイモシスト線虫が昭和四十七年、後志管内真狩村、留寿都村で発見されてからしばらくなりを潜めていたが、隣町斜里三町にも遂に浸入するところとなった。
我が中標津町でも、昨年ジャガイモシスト線虫防除対策本部を設け村田町長を本部長に、早速対策に

乗り出し、他町村からの出耕作調査、米町時の完全洗車要請等、又土壤検診用器具を購入し普及所の協力を得て、昨年は一六筆の連作ほ場の土壤検診を終りましたが耕作者全員の協力が得られず残念ながら五年以上の連作ほ場七七戸、三九六筆中の二七戸一六筆でした。
今年には連作ほ場全筆を検診目標にして居りますので、土壤採取の上、乾燥してほ場番号・氏名を書きビニール袋に入れて農協農産課迄持参下さる様願います。
又種子馬鈴しよは、原種農場産或は系統のはっきりした処よりの購入とし、ジャガイモシスト線虫の発生地帯からの持込は絶対にしないで言う馬鈴しよ耕作者の申合せであります。未だに発生町より種子馬鈴しよの持込があるとの話もありです。
この様なことのない様に、自分の畑は自分で守る様努力致しましょう。

7月乳質検査結果

種別	氏名	上旬	中旬	下旬	種別	氏名	上旬	中旬	下旬
バ	西垣丈夫	2	1	1	コ	児島喜一	0	0	2
バ	小原治	0	1	2	バ	中条啓一	1	1	2
バ	吉田繁行	1	2	0	バ	高橋昌信	0	1	2
バ	山田一男	2	2	2	バ	湯山稔	0	2	0
バ	菊地良	0	1	2	バ	土井上正雄	0	2	0
バ	笠原金吾	0	0	2	バ	真野米光	0	2	0
バ	緩坂恭民	2	1	0	バ	塩田専治	0	0	2
コ	奥村武雄	1	2	1	コ	大木敏夫	0	1	2
バ	三森章司	2	1	1	バ	服部一好	0	1	2
バ	石崎多門	2	1	0	バ	上村弘志	2	1	1
バ	花川秀一	2	2	0	バ	上村刀	2	0	1
バ	岡部実	1	2	1	バ	松本正通	2	1	2
バ	藤本久雄	1	2	0	バ	遠藤忠義	1	2	0
バ	佐藤末美	0	2	1	バ	劔持幸男	0	2	0
バ	武田勇	2	2	0	バ	渡辺利秋	0	0	2
バ	熊倉彦吉	0	2	0	バ	田代良司	1	2	0
コ	山田輝男	2	2	2	バ	秋山政雄	1	0	2
コ	鈴木嵩	2	2	2	バ	広瀬定夫	0	1	2
バ	国見実	2	1	1	バ	半沢勇雄	2	2	2
バ	斉藤安雄	1	2	2	バ	田代昭	2	0	2
バ	今井靖清	1	2	1	バ	安江八五郎	1	0	2
バ	鈴木敏夫	0	2	2	バ	山口広幸	1	2	2
バ	佐藤清	0	2	0	バ	佐伯根次	2	1	0
バ	乾洋	1	1	2	バ	萩原蝶七	1	2	1
バ	水本一三	0	2	0	バ	富沢保男	2	0	1
バ	佐藤きゑ子	2	1	1	バ	谷村茂夫	1	1	2
バ	日下一芳	0	2	0	バ	竹下日吉	2	2	1
コ	福島広光	4	3	1	バ	柳田治郎	2	1	0
バ	佐々木政行	1	1	2	バ	青木喜三	1	2	0
バ	小岩正一	1	1	2					
バ	丹羽孝	1	2	0					
バ	舟橋清高	0	2	0					

もっと乳質を高めよう

ランク3以上に対してペナルティ5円/kg
が課せられます。

0 …… 100万個未満

1 …… 100万個～199万個

ラ 2 …… 200万個～399万個

ン 3 …… 400万個～1,100万個

ク 4 ……無 限

5 ……無 限

従来全戸掲載いたしました、2戸以上掲載します。

旬別個乳検査成績(ランク別戸数)

ランク別旬	0	1	2	3	4	5	合計
上旬	218	77	20	0	1	0	316
中旬	173	112	30	1	0	0	316
下旬	200	90	26	0	0	0	316
合計	591	279	76	1	1	0	948
合格率	62.4	29.4	8.0	0.1	0.1	0	

地区別個乳合格率

地区旬	当 幌	中 標 津	俵 橋	開 陽	武 佐	第二 俣 落	平 均
上旬	100.0	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	99.7
中旬	100.0	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	99.7
下旬	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
合計	100.0	100.0	98.6	100.0	100.0	100.0	99.8

営農計画と家畜市場

生産者待望の系統家畜市場が開催され、すでに三回の市場を開設し非常に良い結果を生じています。この市場を生産者自身のものとし今後の農業経営に役立ててほしいと思います。

「物を造った者が売れる価格も決まる」この基本的な考え方で今年の営農計画を達成されるよう努力をお願い申し上げます。

農繁期の

生活点検

労働が一段と激しくなってきました。日常の食生活は豊かになったと言われるものの、身体の疲れを感じてからでは食欲も劣り、せっかくの栄養料理も役に立ちません。次の点に特に気をつけて下さい。

一、胃の消化に注意
急にお腹につめこんだり、不規則な食事時間や、食後休みなしの労働は胃に負担をかけます。

二、ビタミン、カルシウムは充分にとりましょう。

新陳代謝が盛んになるとビタミンB1不足に陥り、だるさ、いむわ

りの原因になります。強化米、麦レバー、セロリー、豆類はいつも以上に食べましょう。

ビタミンCも同じように気候の変化と疲労に対応できる抵抗力をつけるものですから、毎日新鮮な野菜と果物は食べましょう。又肉体系疲労とあわせて神経の疲労も大きくなります。神経の興奮作用を抑制する働きをもつカルシウム（牛乳、乳製品、海藻類）は、つめて食べるようにしましょう。

一日の食事は出来るだけ多くの食品を食べることです。

畑作物の 54年度 病害防除について

一、馬鈴しよの疫病防除
七月以降、日照不足、低温、多湿ぎみの天候が続く馬鈴しよの茎葉は全般的に軟弱ぎみに生育しており疫病は多発の状態にあると言えましょう。八月に入ると塊茎の肥大や澱粉含有が急速にすすむ大切な時期ですので、予防を重点とした適確な薬剤散布が大切です。防除にあたっては葉液の濃度は基準を守り散布量は十r当り一二〇ℓ以上とし茎葉にむらなくかかるようにする事が効果的です。

又、疫病の発生期間中は、降雨前、降雨後の防除も効果があります。

二、シストセンチュウの検診土壤の係取についての注意。

ジャガイモシストセンチュウの予防対策として土壤検診を実施します。一般作業のあいまを見て早目に土壤を採取し、農協が普及所にとどけるようにして下さい。

(1) 採取ほ場は馬鈴しよ連作五年以上の畑を対象とし採取した土はビニール袋に入れ、氏名と採取ほ場の地番（ほ場台帳の）を明記する事。

(2) 採取方法、面積五十rを単位とし、大人で八歩幅（約五m）毎に格子状に採取して行き表土は約五種除いた下の部分をスプーンでひとさじずつ取りビニール袋に収納する。ほ場面積が十r未満の場合は全採集量が三〇〇gを下廻らない量とします。

三、てん菜の褐斑病の防除
褐斑病の病原菌は被害茎葉、根冠部で越冬します。連作ほ場や前年度のビートほ場に隣接して作付したビートほ場では、早くから発生しますので第一回目の防除を早目にする事が大切です。

防除時期、第一回、七月中旬
第二回、八月上旬 第三回、八月中下旬とします。薬剤はスズ剤か、ダコニール剤を使用し、適正濃度を守るようにしましょう。

又、八月中下旬の褐斑病の防除のときに、ヨトウムシの防除をかねて実施する事が効果的です。

54年度 営農計画中間 検討について

あなたの六月末営農実績は、いかがでしょうか。農作業のあいまをみて、後半の計画について中間検討をいたしますので、希望者は担当者に申し出下さい。

相談課